

# 2019年度採択 資金分配団体 プログラム・オフィサー研修

## 事後評価直前研修

2022年6月28日

一般財団法人CSOネットワーク



**JANPIA**

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

本講座の資料は、JANPIAの委託により、一般財団法人CSOネットワークの責任のもと、以下のメンバーによって作成されました。

今田克司、千葉直紀、大沢望

休眠預金等活用制度は、資金分配団体と実行団体の皆さんと一緒に作り上げていくものです。本研修では参加や双方向性を意識してより良い時間にしましょう。

「気づき・感想」や「疑問・質問」は、いつでもZoomのチャット欄に書いてください。

事業設計や評価設計において正しさを決めるのは、資金分配団体の皆さんです。JANPIA POや講師陣は、そのための壁打ち役やリソースパーソンとして活用ください。

本セッションの到達目標は、以下の通りに設定しました。

- **全体の流れにおける事後評価の位置付けと、事後評価をおこなう際のポイントを理解する**
- **資金分配団体／実行団体が現場にもどって、事後評価の準備のためにやること（注力すること）が明確になる**

## 第1部（資金分配団体、実行団体共通） 100分

- （1）事後評価の全体像、点検・検証の概要（20分）
- （2）事後評価の基礎（60分）
- （3）質疑応答（10分）

（休憩）

## 第2部（資金分配団体向け） 70分

- （1）包括的支援プログラムの評価、非資金的支援の成果測定（10分）
- （2）資金分配団体による非資金的支援のプレゼン（20分）
- （3）資金分配団体によるパネルディスカッション（30分）
- （4）全体共有、質疑応答（10分）
- （5）事務連絡（10分）

## <あらためて確認、強調したい点>

### 資金分配団体の成果は、各実行団体の成果の足し算ではない。

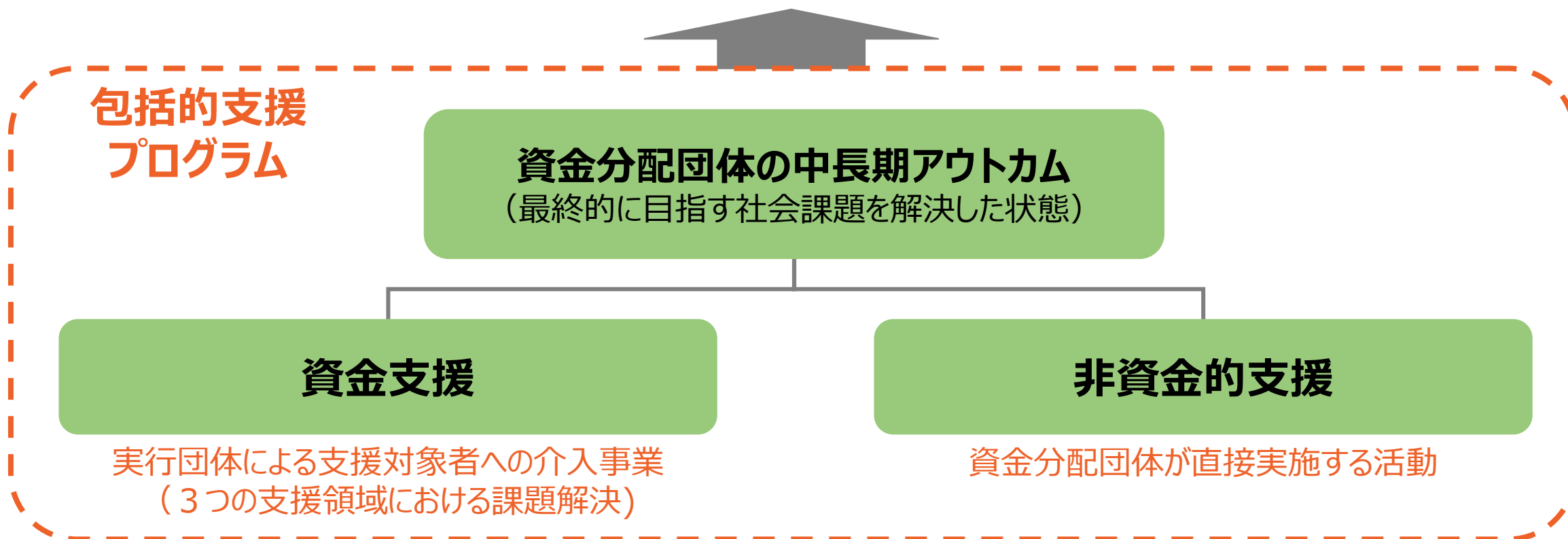
- なぜならば、「包括的支援プログラム」として、資金分配団体自らの課題設定と解決策の仮説のもとに、対象となる地域や分野において事業を包括的に企画・実施しているからです。
- 「包括的支援プログラム」の「非資金的支援」の中に、実行団体に資金を渡すこと（資金的支援）以外の活動全てが含まれており、ここが資金分配団体の戦略の特徴であり、助成プログラムの付加価値になる部分です。
- この事後評価の準備のタイミングでもう一度、資金分配団体の戦略（無意識的にやっていることも含めて）に立ち返り、資金分配団体として示すべき成果について考えてみてください。

# 資金分配団体に求められる包括的支援プログラム



資金分配団体に求められる包括的支援プログラムは、以下のように構成されています。

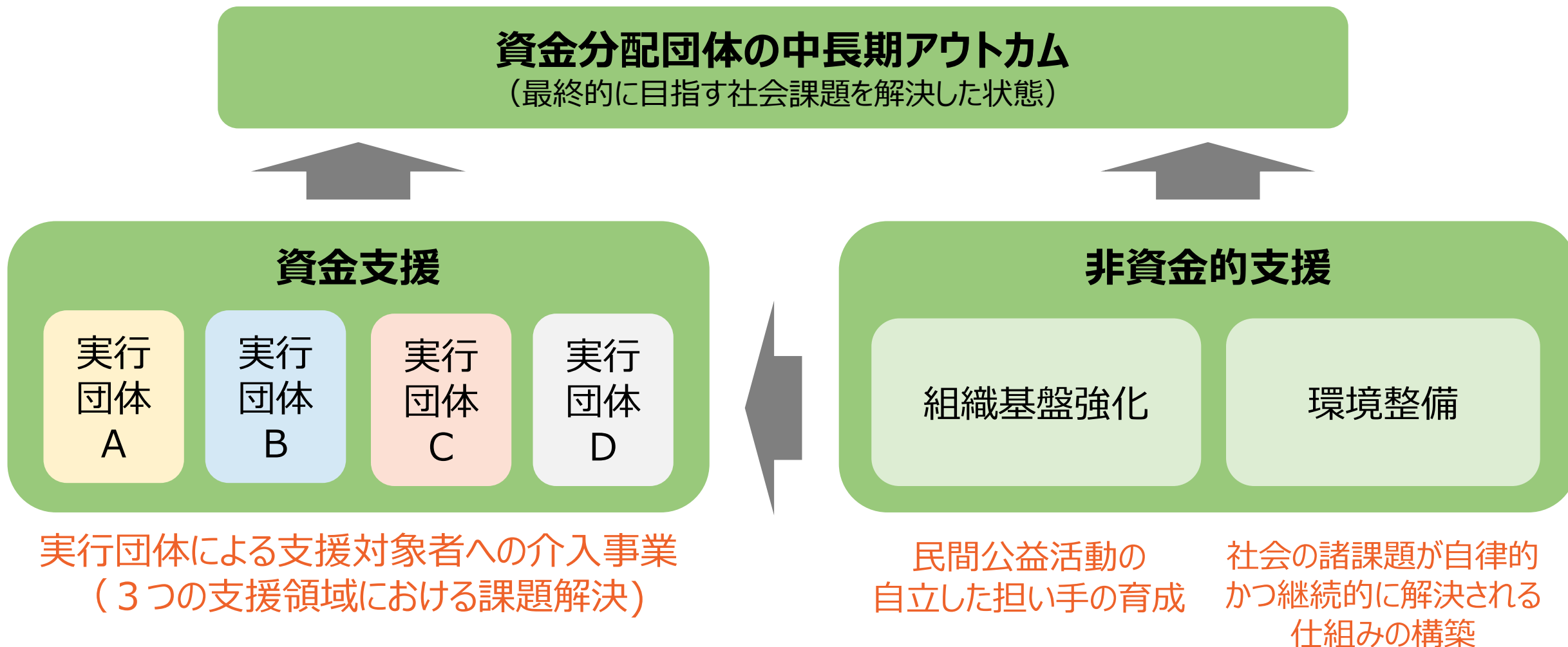
3つの支援領域		
子ども及び若者の支援	日常生活または社会生活を営む上で困難を有する者の支援	地域社会における活力の低下 その他社会的に困難な状況に直面している地域の支援



# 資金分配団体に求められる包括的支援プログラム



資金分配団体が行う活動としては、中長期アウトカムを目指すための資金支援と非資金的支援があります。



# 【参考】包括的支援プログラムのToC



資金分配団体の包括的支援プログラムを意識した事業設計図は、以下の例を参考にしてください。 出典：2022年度資金分配団体公募 事業設計図補足資料

## 〈実現したい社会の状態（長期アウトカム）〉

医療的ケア児とその家族を支援する社会的インフラが整っており、家族全員が社会とのつながりを持っている状態

## 〈事業終了3～5年後に実現したい状態（中期アウトカム）〉

誰（どこ）が、どんな状態になることを目指し、あなたや団体がコミットしますか

受益者の状態	実行団体等の状態	対象地域の状態
<ul style="list-style-type: none"><li>希望する子どもたち皆が、社会との接点を簡単に持てるような状態になっている。</li><li>親の孤立感や疲弊感が軽減している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>行政や他団体との連携により支援対象地域の医療的ケア児とその家族に対して情報発信や支援ができる状態になる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>医療的ケア児の世帯がレスパイトケアや体験等の支援にアクセスしやすい状態になる</li></ul>

## 〈事業終了時まで実現する状態（短期アウトカム）〉

上記に設定した目標状態を達成するために必要な「前提条件」は何ですか

受益者の状態	実行団体等の状態	対象地域の状態
<ul style="list-style-type: none"><li>支援対象者が、社会との接点が増え、孤立感が軽減している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>実行団体が助成期間と同程度以上の支援を継続できる基盤を有している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>支援を行う行政や民間の団体、実行団体で情報交換が定期的に行われている</li></ul>

## 〈想定する実行団体の活動〉

<ul style="list-style-type: none"><li>医療的ケア児とその家族の旅行や夢の実現をサポートする</li><li>医療的ケア児の家族のレスパイトケアの提供</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クラウドファンディングプラットフォームの提供</li><li>他団体や行政とのネットワーク強化</li><li>実行団体の組織基盤強化支援（主に評価、資金調達、経営、人材育成、広報支援）</li></ul>
---	---

## 〈資金分配団体の活動〉



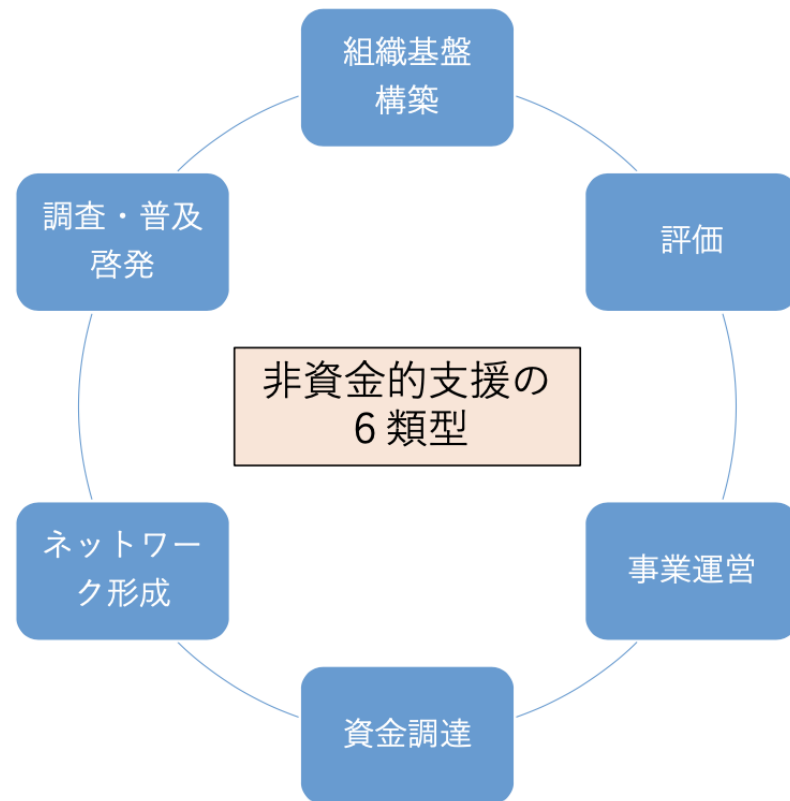
「非資金的支援」の提供は、固定化するのではなく、実行団体の要望や状況に応じて最適化した形で実施されることが望めます。

包括的支援プログラムにおける非資金的支援	
組織基盤強化	環境整備
民間公益活動の自立した担い手の育成	支援の出口戦略を検討し、社会の諸課題が自律的かつ持続的に解決される仕組みを構築する活動
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 目標設定（ビジョン・ミッション・バリュー等の確立）</li><li>◆ 人的基盤の確立</li><li>◆ 資金調達を含む財政基盤の確立</li><li>◆ ガバナンス整備</li><li>◆ 評価実施の支援</li><li>◆ 調査・普及啓発等の支援 等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ネットワーク活動</li><li>◆ 活動の社会的意義や成果の発信</li><li>◆ 問題の可視化・制度化を目指した提言</li><li>◆ 新たな民間資金の調達 等</li></ul>

# 【参考】非資金的支援の類型



休眠預金資金活用制度では、資金分配団体が非資金的支援を積極的に担うことが強く求められます。各資金分配団体が、それぞれの助成戦略を実現するために最適な非資金的支援を行えるよう、JANPIAから積極的に提案していきましょう。



## 「非資金的支援」策定のポイント

- 資金分配団体の支援戦略との整合性
- 資金分配団体のキャパシティ
- 資金分配団体の内部リソース
- 利用可能な外部リソース
- 実行団体のニーズ
- 活動分野を取り巻く社会環境
- 活動分野における潜在的なステイクホルダー 等

## 留意点

- 非資金的支援と通常の運営管理業務は区別すべき
- 受け身の相談対応ではなく、明確な目標を持ち、成果が検証可能な支援計画の策定を目指すべき

出典：多摩大学 小林氏 支援戦略の整理資料より



非資金的支援の成果を把握する準備として、例えば以下の観点も確認しましょう。

資金分配団体の包括的支援の一押しの部分を短期アウトカムとして書いてあるか？  
実行団体の組織基盤強化、環境整備に関するニーズに変化はないか？

目標値や目標状態の設定について、根拠となる理由が説明できるか確認しましょう。  
量的な目標だけでなく、質的な目標設定もありえます。

短期アウトカム (非資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
対象地域において、実行団体と地域の連携協力団体のコミュニケーション頻度が高まり、連携が構築される。	①実行団体と連携協力団体間のつながりの数	①実行団体が確定してから把握	①つながる連携協力団体の増加 (初期値より増加)	①2023年2月
	②実行団体と連携協力団体間のコミュニケーションの頻度	②実行団体が確定してから把握	②年に1回以上の交流	②2023年2月

非資金的支援の成果を把握するための指標設定になっているか？

最新の事業計画でも、一部の団体で初期値や目標値が、「実行団体が確定してから設定」となったままの項目が見られます。その更新について、確認しましょう。

「知りたいことを知るために、誰に対して、どのように調査を行うか」という具体的な測定計画についても詰めましょう。

事後評価の計画に対する「点検」の機会が、  
資金的支援／非資金的支援の成果設定や目標値を確認・調整できる  
最後のタイミングです。

成果の設定や指標が変わったら、セオリーの見直しも必要になります。

調整が必要な場合には、JANPIAに相談ください。

## 中国5県休眠預金コンソーシアム、まちぽっと、 長野県みらい基金の事例紹介

1. 非資金的支援のアウトカム、指標、目標値・状態、データ収集・分析方法で考えていること
2. 非資金的支援の評価計画でこだわった点、工夫した点
3. 非資金的支援の評価計画で課題と感じている点

事例紹介いただいた3団体が2グループに分かれますので、どちらかのグループに入ってください。  
ディスカッションでは、以下の点の深堀りをおこない、資金分配団体同士の学びを深めたいと思います。

## ＜パネルディスカッションのお題＞

- （１）あらためて考える非資金的支援の成果とは？
- （２）非資金的支援の「こだわりポイント」の成果について評価報告書で適切に報告するために、具体的にどのような評価を実施すべきか？
- （３）上記（２）において、どのような課題があり、それはいかに解決できるか？

「包括的支援プログラム」は、  
資金分配団体の戦略の特徴・意図が反映される部分です。

残りの期間で、設定した成果の適切性を確認して、  
それらの成果を高めるための働きかけ（介入）と  
成果を的確に捉えるための評価を準備しましょう。

誰ひとり取り残さない  
持続可能な社会作りへの触媒に。

ご清聴ありがとうございました。